

私事ではございますが、会社勤めの傍ら、管球アンプ用出力トランスのガレージメーカーとして出発することになりました！

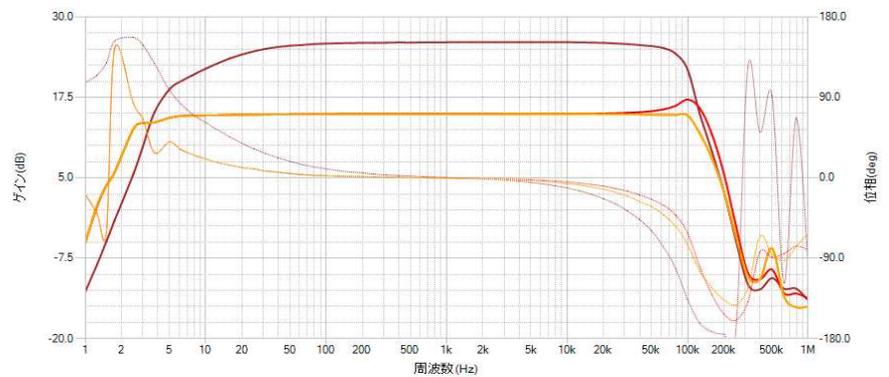
名付けて、「ARITO's Audio Lab」です。
プッシュプル用2機種、シングル用2機種でスタートしますが、本機が、発売予定のトランスを使った初めてのアンプとなります。

前作(1619アンプ)で上手く行ったパラフィード方式を、小出力用OPTに適用してみました。

シングルアンプはOPTに直流を重畳するため、どうしても低域の再生においてはプッシュプルアンプと比べて不利であり、特に小出力シングルとなるとOPTのコアボリュームが小さいことから、低域再生は目をつぶらなければ、というのが一般的です。その苦手な低域をパラフィード化することでどれくらい挽回することが出来るのかを試してみました。

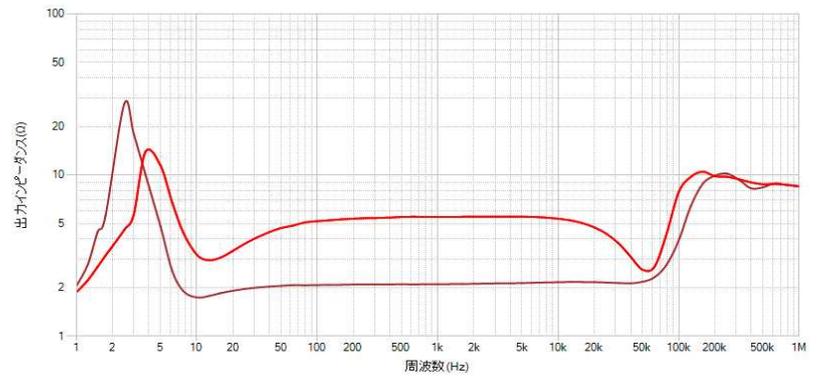
本機に採用したGLタイプはコアギャップを設けず、プッシュプル用OPTと同じコア組をしています。そのおかげで、一回り、いや、二回り以上大きなOPTに匹敵する低域の再生が楽しめるアンプになったのではないかと思います。

6BM8パラフィードアンプ 周波数特性 (Lch, 8Ω負荷, -10dB出力)



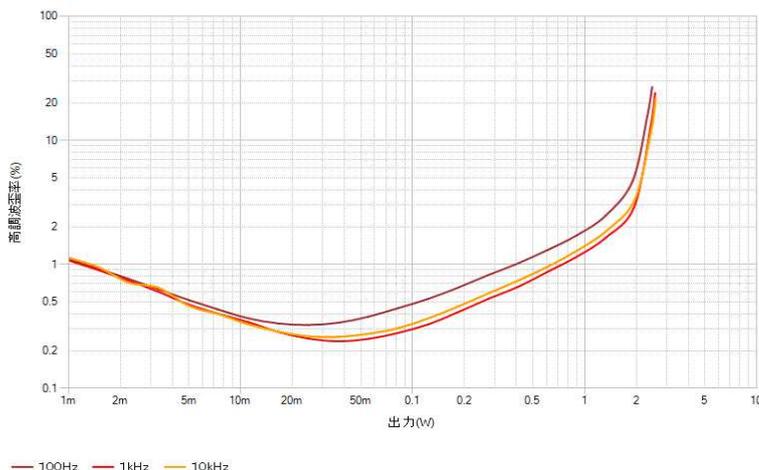
— オーバーオールNFB無し — NFB=11.15dB、位相補償無し — NFB=11.15dB、位相補償3300pF

6BM8パラフィードアンプ 出力インピーダンス特性 (Lch, 注入法, 0dBV)



— オーバーオールNFB無し — NFB=11.15dB

6BM8パラフィードアンプ 全高調波歪率特性 (Lch, 8Ω負荷)



残留雑音

	10~300kHz	IEC-A
Lch	817.2μV	129.2μV
Rch	841.8μV	133.1μV

ダンピングファクター

	(8Ω負荷, 1kHz, 1Vrms)
Lch	3.80 (KNFのみ1.45)
Rch	3.79 (KNFのみ1.47)

2019. 9. 22
前川有人(滋賀県米原市)